

特集 2-12 「政策実現―世界の労働組合はこう取り組む」

CASE 2 ドイツ・IGメタル

IGメタルベルリン事務所局長 マーティン・カンプ氏

IGメタルベルリン事務所研修生 テイノ・ベングララー氏

聞き手… JCM浅沼事務局長

浅沼事務局長(以下、JCM)…IGメタルは、特に社会保障や労働法、環境・エネルギーの問題など、国の政策の決定に大きな影響力をお持ちだと思えますし、労働組合にとっても非常に重要な活動です。IGメタルのみさんの具体的な政治への取り組み、とりわけ職場のレベルでどういった活動をされているのかお聞きしたいと思えます。

日常的な対話を重視した政党との連携

JCM…IGメタルはどの政党を支持していますか。また、その政党と日常的にどのような連携を取っていますか。

カンプ氏(以下、IGM)…IGメタルが一番親しい関係を築いているのは、社会民主党(SPD)です。し

かし一つの政党だけと緊密な関係を築くのではなく、様々な形で複数の政党と協力関係を結んでいます。SPDを筆頭に、メルケル首相のキリスト教民主同盟(CDU)、緑の党、その他の左派政党と連携しています。自由民主党(FDP)はそれほど近い存在ではなく、ましてや極右政党「ドイツのための選択肢(AfD)」とは全く関係がありません。

これには歴史的な背景があります。ドイツは、ナチ党が政権を取るまで、複数の労働組合のプロトク的なグループがありました。キリスト教系の労働組合、社会主義系の労働組合など、複数のグループがあったのですが、第二次世界大戦後、統一労働組が誕生し、その中でIGメタルも統一労働組として再編されました。そのため組合員は必ずしも一つの政党の支

持者だけではなく、複数の政党の支持者がいます。ただ、メインはSPDです。

JCM…政党とは日常的にどのような連携をとっているのですか。

IGM…とにかくなるべくたくさん話し合う。会話を重ねることです。現在SPDはCDUと大連立を組んでいるので、ホフマン会長もIGメタルの様々な活動に関して、SPDのハイル労働大臣とかなり密接な関係を保ち、様々な話をするようにしています。大臣側も、労働法や社会法の改正といった動きがある場合には、その準備段階で、一定の枠内ではありますが、IGメタルのホフマン会長らと話をしています。これがトップレベルでの連携です。

また、特定のテーマに絞った形での連携もあります、例えば今大きな



T・ベンクララー氏



M・カンプ氏

変革に直面している自動車業界に関して、デジタル化と電化が進み、モビリティそのものがシフトしていく中で、IGメタルはこの大きな変革に備える対応策を提案しています。それは労働市場政策に関わるもので、これまでとは違う仕事に就かなくてはならない人たちが増えるわけですから、そういう人たちが新しい職に移れるように、研修や継続教育、職業訓練の機会を設けて新たな変革に備えるという提案を連邦雇用庁に対して提出しています。これを大臣にも説明して、連邦労働省と一緒にイベントを行うことになりました。

IGメタルの本部は首都ベルリンから500〜600km離れたフラ



インタビューの様子

ンクフルトにあるので、実務的レベルにおいては、ベルリン事務所が「ロビー活動オフィス」的役割を果たしています。政府、政党、議会と連携を取ったり働きかけたりするという役割を担っているスタッフが4人、事務所のスタッフが2人います。この4人はSPD、CDUなどで働いた経験があり、幅広くいろいろな政党と良い関係を保ち、チャンネルを築いているのです。

自ら政治を目指して 議員に立候補

JCM…金属労協には加盟組織出身の国会議員が衆議院・参議院合わせ

て8人いて、国会で我々の政策要求実現のために活動して下さっています。IGメタルではどうですか。

IGM…IGメタルの組合員の中にも議員になっている者はいます。連邦議会の議員、州議会、また欧州議会の議員になっている人もいます。そういう方々は主に一般の組合員であって、役員とか幹部ではありません。会派もバラバラで、一番多いのはSPDの議員ですが、左派党の議員もいますし、CDUの議員もいます。専従の幹部が議員になるというケースも、稀ではありますがあります。ただし、IGメタルが我々の代表として議会に送り込むということではないんです。彼らはもともと労働組合の仕事と並行して政党活動もしている人なので、本人の意志で議員になるケースが多く、全面的にIGメタルとしてバックアップして政界入りするわけではありません。

JCM…そこは少し日本と違いますね。我々は政策実現のために国会議員を送り込んでいるという意味が大きいのです。それでは、選挙があったときに、IGメタルとして立候補者の支援をするということはありませんののですか。

IGM…オフィシャルな形ではありません。1年半くらい前にドイツで

総選挙がありました。そのときにIGメタルがやったことは、各政党の政策の比較です。そしてIGメタルの政策と各政党の政策を並べてみて、どの政党が我々の要求に一番近いかということを確認します。そこから、政策に近い党がどこか解るのですが、だからといって個別の党や候補者を応援するということではありません。

最重要政策課題は 産業の変革への対応

JCM…政策に関する最近の重要課題は何ですか。

IGM…今我々にとって一番大きなテーマは産業の変革です。一つには環境保護対策、CO₂の削減による変革。もうひとつはデジタル化で、キーワードはインダストリー4.0とAIですが、これらによって引き起こされる産業の変革です。我々が政治に求めているのは、この変革の動きをきちんと政策として支えてほしいということ。その中には雇用者の継続教育とか職業訓練、資格取得などの人的側面がありますし、加えてより積極的な産業政策を求めています。

一つ例をあげますと、電気自動車の普及に関して政府に求めているのは、なるべく多くのコンポーネント

をドイツ国内で生産できるようにすることです。特にバッテリー関係は、アジアで多く生産されていますが、なるべく付加価値創出の一部をドイツに残して欲しい。そのためには政治サイドの支援が必要です。それからこれはヨーロッパの話ですが、カルテル法が厳しくて色々な制約があるために、望ましい形での合併がなかなか実現しないという問題があるので、これについても改革を求めています。

さらに、人材育成・教育・資格取得促進のため、国からの支援を求めています。具体的には、雇用者が一時期仕事を離れて勉強する、研修に行くなどの所得保障として、財政的支援を求めています。それから労働協約、とりわけ共同決定権を法律で下支えしてほしいということを求めています。

政治は遠いものではなく 日々の生活に直結する

JCM…本部の皆さんは、直接政党・政府と話し合いをされて、課題意識が明確になっていると思いますが、職場の皆さんが同じような問題意識と関心をお持ちなのでしょう。日本では政治に対して興味を示してもらいにくい面があるのですが。

I G M…その度合は様々だと思いま

す。ドイツの職場には従業員代表委員会が従業員の利益を代表していますが、私の印象としては、このところ職場レベルでは政党や政治に関わるような大きな運動は減っていると思います。一方で政治そのものに対する相対的な関心は非常に高いと思います。多分、今の時代に人々は、自分たちの日々の労働や労働環境が、政治的な枠組み条件や政治で何が決まるかによって影響を受けることに気づき始めているのだと思います。政治は決して遠いものではなく、自分たちの日々の仕事に直結しているということに気づき始めているのではないかというのが、私の印象です。言ってみれば、今、職場の労働者の再政治化ともいう動きが出てきているのではないかと思います。

I G Metalに対して組合員が期待しているのは、主に協約をしっかりと交渉して勝ち取ってほしい、良い賃金・労働条件を勝ち取って欲しいということが一義的にあると思います。それを政治の動きとか大きな枠組みに重ね合わせて考えることをあまりしてこなかったのかもしれない。もしかしてベルリン事務所では、どんなロビー活動をしているかなどは、あまり知らなかったかもしれない。

	SPD 社会民主党	Bündnis90 Die Grünen 連合90 / 緑の党	Die Linke 左派党	Freie Demokraten FDP 自由民主党	Alternative für Deutschland ドイツのための選択枝
	<ul style="list-style-type: none"> 外部雇用（請負契約と派遣労働）の際の共同決定権の拡大 客観的理由のない有期契約の廃止を支持 請負契約の悪用と闘う 初日から派遣労働者に同一賃金 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的理由のない有期契約の廃止を支持 疑わしい請負契約に反対 初日から派遣労働者に同一賃金、並びに柔軟性ボーナス 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的理由のない有期契約の廃止 連続有期契約の禁止 派遣労働と請負契約は、従業員代表委員会の同意があるのみ 初日から派遣労働者に同一賃金、並びに約30%の柔軟性手当 	<ul style="list-style-type: none"> 派遣労働、有期雇用の制限なし、代わりに規制撤廃 	<ul style="list-style-type: none"> 企業において、派遣労働と請負契約で働く被用者の割合の上限を法律で15%にする、6カ月後から同一待遇にする。
	<ul style="list-style-type: none"> パートタイムからフルタイムへの復帰権を支持 育児や介護のための労働時間短縮の際の収入補償 	<ul style="list-style-type: none"> パートタイムからフルタイムへの復帰権を支持 育児、介護、教育期間中の報酬上乘せ 	<ul style="list-style-type: none"> パートタイムからフルタイムへの復帰権を支持 休職期間の規定（サブティカル） 完全な賃金保障と人員補償を伴う労働時間短縮（週約30時間） 継続教育中の労働時間短縮の際に最低70%の収入補償 	<ul style="list-style-type: none"> 労働時間短縮の際の収入補償は認めない パートタイムからフルタイムへの復帰権に反対 長期労働時間口座を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 言及なし
	<ul style="list-style-type: none"> 2030年まで最低48%の安定年金水準 2030年まで保険料を22%に固定 基礎年金で、10%の連帯年金を（35歳から保険料期間、もしくは育児・介護期間） 年金受給開始年齢は据え置き 全ての人のための就業者保険を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 年金水準の減額はしない 税財源の保証年金を支持 目的：年金のための国民保険 高齢期パートタイム労働のための60歳からの部分年金 	<ul style="list-style-type: none"> 年金水準を53%に引き上げ 1050ユーロの「連帯最低年金」を支持 65歳から年金受給、もしくは最低40年の保険料納付期間で60歳から年金受給 全ての人のための就業者保険を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 各世代の寿命に合わせた年金水準を支持 年金受給開始年齢の柔軟化。60歳からの年金を可能に（基礎保障水準の請求権がある場合） 	<ul style="list-style-type: none"> 年金水準について言及なし 保険料納付期間45年後の年金受給を支持 高齢期の基礎保障を支持（金額は不明）
	<p>SPDは、より強固な社会的公正とインフラ投資を強調。労働市場政策における資格取得の強化など、数多くの要求が我々の関心事項を取り上げている。</p>	<p>資格取得のための労働時間と労働市場政策に関して、緑の党はIG Metalの立場に非常に近い。緑の党は熱意を持って、党の中心的テーマである気候変動・環境保護に注力するが、そこには対立点がある。</p>	<p>左派党は、福祉国家の拡大と、より公正な税政策を要求。年金水準と、最低賃金の大幅な引き上げに関する立場はIG Metalの要求をも上回る。</p>	<p>FDPの改革は中途半端。個人が自ら責任を負うことを目的として、教育を重視。FDPにとっての柔軟性とは、雇用者側の柔軟性のこと。集团的保護規定を押さえ込もうとしている。</p>	<p>被用者を巡るほとんど全てのテーマについて、AfDは言及なし。経済界を代表するメンバーで結成されたこの党の候補者は、連帯ではなく区別と差別が特徴的。</p>

い。しかし最近では、身の回りのことからもっと大きな枠組みに関連付けて捉えるという動きが出てきているように見えます。IGメタルが大きな組織で、明らかに政治的なアクターとしての存在感があることが有利に働き、政治との関連でもIGメタルの活動を捉えようという新しい動きにつながっているのかもしれない。

今年の6月にベルリンで大規模なデモを予定しています。デモを通じて我々組合としての要求を強くアピールすることが目的です。これに今から参加表明をしている人がとても多いのです。それはIGメタルが組織として全国に到達して、ベルリンに来てデモに参加してほしいと伝えただけです。デモによって我々の存在を幅広く知らしめようという動きに賛同する人が増えてきたのも、最近の新しい動きの現れではないかと思えます。

JCM…それが起こってきたのは、IGメタルから職場に対してなにかアプローチをしたからなのか、それとも自然発生的にそうなったのか、世の中の流れがそういう雰囲気になってきたのか、どういふきっかけでそうなってきたとお考えですか。

IGM…再政治化、政治に関心を持

IGメタルによる政党チェック

IGメタル	CDU/CSU キリスト教民主同盟 / 社会同盟	
失業者に派遣労働や有期雇用ではなく、良質の仕事を仲介する。請負契約の悪用に対抗すべく、従業員代表委員会が効果的な形で共同決定	・有期雇用の「明らかな悪用」を廃止、しかし企業における共同決定については言及せず	
労働時間削減要求権（人生のステージに応じて期限付き）と子育て、介護、教育の際の所得保障	・家族との時間のために、より多くの裁量の余地を設けるため、家族時間口座と生涯労働時間口座設置に関する調査依頼 ・労働法の近代化。目的は、協約パートナーに追加的裁量の余地を与えること	
信頼できる社会保障。年金水準の上昇	・2030年までの公的年金保険の変更に反対（例外は、稼働能力減退年金の改善） ・政治と労使の代表で構成する年金委員会において、2030年以降のための提案を作成	
IGメタルチェック結果	継続教育、復帰の権利、有期雇用の乱用阻止。CDU/CSUの綱領の多くは、聞こえは良いが、具体的な提案は曖昧。年金水準の引き上げと労使折半の復活については言及なし。労働時間法については、緩和しようとしている。	

つ人たちが増えてきたと言っても、全員が活発に活動しているというわけでは決してなく、徐々にそういう方向になってきたという感じですが。その理由の一つはIGメタルのキャンペーンの成果だと言えますが、それよりも、ドイツの人々が色々な変革や社会の変化を目的にしたりして不安を抱くようになってきたことが大きいと思えます。その不安が自分の働いている職場にまで広がっている、その結果だと思えます。

例えば、先週フォルクスワーゲン社が、7千人の人員削減をすると言表しましたし、フォードもドイツに拠点を持っていますが、5千人削減すると発表しています。このような

ニュースや、テレビでもAIの特集や、自動化の話聞かない日はありません。人々が、これは遠い未来の話ではなくて、自分たちの職場に直結している話なのではないかと気づき始め、「なにかしなければいけない」と突き動かされてのことだと思えます。積極的に良い職場の未来、良い仕事の未来のために何ができるかという我々の働きかけと、世の中の動きが重なった結果だと思えます。

「投票に行こうー」 ポスターキャンペーン

JCM…そのためにIGメタルとして具体的なキャンペーンをしたり、特別な広報活動や職場に対する教育な

どを行ったりしているのですか。

IGM…大小色々ありますが、例えば定期的な政治家、各省の幹部、政党の方などを呼んで話を聞くセミナー・講演会などがありますし、他にも広報活動につながりやすいような大きなイベントも行っています。先程言った6月のデモはその中でも最大規模のもので、あと、今ドイツで台頭してきている極右政党AfDに対して市民社会の中から様々な形で反対する活動が行われていますが、IGメタルとしてもこれに積極的に参加しています。

それから1年半前にあった総選挙の際にはIGメタルが各地でポスターキャンペーンを展開しました。例

「投票に行け！」投票行動を促すIGメタルの選挙キャンペーンポスター



日本語訳

- ① 君の道の先が未来なのか、袋小路なのか、君も一緒に決めるのだ。
- ② 9月24日は被用者の教育の機会を左右する。
- ③ 投票に行け！

えばドイツの主要な駅など、どこにでもIGメタルのポスターを貼って、IGメタルの要求内容の認知度を高める、露出を多くするというキャンペーンです。

JCM：職場に働いている人たち、国民といった方がいいかもしれませんが、投票するときに、自分たちの課題を解決してくれる人に投票しないと問題解決に繋がりにくいと思うのですが、今おっしゃったようなポスター

は、各個人の投票行動を誘導するような内容なのか、それともIGメタルの考えを示している内容なのか、どちらですか。

IGM：ポスターの目的は、とにかく投票率を上げること。「選挙に行く」ということです。自分たちのために投票に行くということを認識してもらおうのが目的です。IGメタルとして特定の政党に投票するように促すものではなく、IGメタルの要

求が明確に解るようなポスターです。主に労働時間、協約の拘束力、年金などについて、短く明確に、ぱっと見て要求内容が解るようなポスターになっています。これを見て有権者が「これが我々の求めていることだ」と思ったら、各政党が掲げている選挙公約などを見て比較して、一票を投じてほしい。自ずと特定の政党を選ぶことにはなると思いますが、IGメタルとして「〇〇党を選んでください」ということは一切うたっていない。

従業員代表委員会のメンバーの参加が非常に重要です。例えば政治家と会う場合、組合だけで行くよりも、フォルクスワーゲン、メルセデスベンツなどの大企業の職場委員会のメンバーと一緒にいくとインパクトが強くなる、発言にもより耳を傾けてもらえるので、大切にしています。

行動を始めた若者たち

JCM：日本では、全体的に政治への関心のレベルはそれほど高くなく、特に若者の政治への関心が低いと思っています。ドイツの若者はどうでしょうか。また、男女で差はありますか。

JCM：政治に対する関心度の高まりを感じましたが、職場の組合員の皆さんは、全体的に見て、積極的に政治に関わろうとは思っていますか。それとも政治とはなんとなく距離があると感じている方が、全体的には多いとお考えですか。

IGM：どのレベルにももちろん積極的に政治活動に関わろうという人はいますが、全体的な傾向というわけではなく、やはり個別だと思っています。積極的に要求を通したいと思う気持ちが非常に強い人は黨員になって政治活動するということもあるでしょうし、地方議会の議員となって活躍する方もいます。一方で、我々が行うベルリンでの連邦議会レベルのロビー活動では、大企業の職場委員会、

IGM：全般的に見て選挙に行くのは明らかに高齢者のほうが多いです。1年半前の総選挙前には、ある研究所が行った意識調査では、やはり投票率は高齢者の方が高く、どちらかと言うと保守政党であるメルケル首相のCDUを選ぶ傾向が強いようです。一方で私の印象だと若い人も決して政治に無関心ではなく、むしろ自分たちの将来と重ね合わせて政治を捉えていると思います。ドイツでは英国のEU離脱問題がきちんと理解されているし、それが及ぼす影響についても若者たちは考えています。この問題は今、大揉めに揉めています

が、そもそもなぜ国民投票の結果がああなったのかというと、若い人たちはEU残留派なのに、投票に行かなかったからですよ。国民投票に参加しなかったために、離脱派が勝利した。こういうことも、ドイツではしつかりと認識されています。

それから、ここ最近の話ですが、ドイツを含むヨーロッパ各国で気候変動の問題に対してもっと大人が考えてほしいと、高校生を中心に毎週毎週デモをやっています。あれを見ると、非常に関心が高いという気がします。若者代表のベングラールさんに聞いてみましょう。

ベングラール…やはり選挙の行方を左右しているのは、今のところ高齢者だと思います。それは調査の結果も裏付けています。しかし、若い人もかなり政治的な活動を活発にしている人は多く、例えばIGメタルの青年組織（26歳以下の組合員で構成）も活発に活動しています。全体的に見て、若者は高齢者に比べて考え方が少し左派で、今とは違う別の何かがあるはずだという考え方です。積極的にデモに参加したり、自分たちで組織して行動に移している若者は大勢います。

学生仲間と話してもそれを感じます。また、若者のほうが明確に右派に対して反対を示していて、AfDには絶対に加担しない、むしろ積極的に反対している人が多いと思います。

IGM…男女比に関しては、明確なデータはありませんが、AfDの支持者は圧倒的に男性の方が多いです。女性の方が正しい判断をしているということでしょうか。今、ドイツの連邦議会の女性議員の数がかなり少ないことが議論になっていて、ジェンダー平等のために選挙制度を変えるという議論が出ています。男女平等が大きなテーマであることは間違いないですね。

また、6月のデモのテーマは、今起こっている大変革を社会的に、環境に優しく民主的な形でやってほしい。これこそが職場の安定につながるということです。政治と企業の側には経済の未来を保障するしつかりとした形を作してほしい。労働の未来を明るく未来にしてほしい。きちんと労働条件を整えて、我々の職場が失われることがないような経済の転換をしてくださいということです。
JCM…ありがとうございます。



党を超えて、でも党派的に

IGメタルが政治に介入する理由

IGメタルに結集する、1万を超える企業に働く220万人を超える組合員、13万人を超える力強い従業員代表委員と職場委員。彼らこそが、強く、説得力のある共同体であるIGメタルそのものである。

日々、数千人の仲間たちがより良い暮らしと労働条件のために奮闘し、大きな成果をあげている。それは、企業内の交渉だけでは完結しない。教育や年金制度をどうしていくのか、その枠組みは政治によって決まる。だからこそ、IGメタルは政治に積極的に関与する。我々は労働のエキスパートなのである。

我々は、政党や政治家との対話を求める。彼らが掲げる公約の内容を忘れないように、プレッシャーをかけなければならない。安定した良質の労働のために、労働協約に基づくより公正な処遇、そしてさらなる社会的安定を求める。

我々は、労働者の利益になる党派を支持するが、広く党を超えて考える必要がある。そのため、IGメタルは特定の政党への投票を求めることはしない。しかし、差別と排他主義には断固「ストップ!」と声を上げる。AfD（「ドイツのための選択肢」）のような政党は全くの対象外である。AfDの綱領は差別にあふれている。候補者がいかに差別主義的で極右的な発言をしようと、党として反論もしない。

連邦議会選挙とともに連帯して行動しよう。もっと安定を、もっと公正を、もっと自己決定を!

イェルク・ホフマン・IGメタル会長